

令和5年度狭山市社会福祉審議会 第2回臨時会会議録

開催日時 令和5年12月15日(金)
午後2時30分から午後4時30分まで
開催場所 狭山市稲荷山環境センター 大会議室
出席者 11名
朝賀委員、井村委員、大野委員、高橋委員、中澤委員、中野委員
寶積委員、細井委員、堀委員、宮本委員、矢吹委員
欠席者 小野委員、諏訪委員、成瀬委員、日比委員
事務局 12名
五十嵐健康推進部長、吉村健康推進部次長(介護保険課長兼務)、小池健康づくり支援課長、木村保健センター保健指導担当課長、湯浅福祉部高齢者支援課長、吉里介護保険課認定担当主幹、吉澤介護保険課管理・保険料主幹、川島介護保険課介護事業担当主幹、西願同担当主査、勝呂同担当主査、松居同担当主査、長壁同担当主任
傍聴者 なし

- 1 開会
- 2 会長あいさつ
- 3 審議、意見、調整事項

第9期狭山市高齢者福祉計画・介護保険事業計画の策定について

(会議資料：第9期狭山市高齢者福祉計画・介護保険事業計画(令和6年度～令和8年度)【素案】)

- (1) 序章、第1章及び第2章について

健康推進部次長(介護保険課長)から説明

会 長 日常生活圏域の分析があるが、入曾圏域は高齢化率が高く、85歳以上の高齢者の数の方も多一方で認定率が低い。これはかなり特殊な状況だと思うが、その背景や要因について分析や検討はしているか？

所 管 課 今回の資料の中には載せていないが、介護サービス事業所が各圏域にどれくらい整備されてるかは確認している。入曾圏域は比較的介護サービス事業所の数が少ないという状況であり、その辺りも要素の一つと分析をしている。また、地域包括支援センターの方からの意見ですが、経済的な要因や背景があり、介護サービスを使う場合の1割負担が難しい人が比較的多いのではないかということも聞いている。

委 員 堀兼・奥富・新狭山は生活圏域で一緒になっていることは事実だが、自治会連合会における地区では全て別の地区で、特性が全く違うため、分けて分析をした方が良いと思う。

また、すこやか体操は今後も普及させる予定か？

所管課長 今年度当初まではコロナ禍だったので市民の方からの問合せはなかったが、コロナが明けて春頃からすこやか体操はどこで教えてもらえるかというような問合せが増えてきており、サピオ稲荷山を使って毎月行っている。感染対策をやってきた関係もあるが、来年度以降は健康づくりに力を入れていきたいと考えている。

委 員 第8期計画の進捗状況・評価における自己評価はどのように行ったか？外部評価は行ったか？

所管課 自己評価については、各取組についてそれぞれを所管する課が自己評価をしたものとなっており、外部評価は行っていない。

(2) 第3章 基本目標1～3について

健康推進部次長（介護保険課長）から説明

委 員 基本目標1の老人福祉センターについて、60歳以上の方しか利用できない場として捉えているが、地域の多様な世代が集い、交流する活動が再開され、多くの高齢者が参加することを目指す姿にしており、例えば多世代だとか3世代が集うような場としての活用はされるか？

所管課長 老人福祉センターの利用実態については、条例で60歳以上と決められているため、他の年齢の方が利用できるという状況にはないが、イベント等に限ってはその利用もできることにしている。

会 長 基本目標2における次世代型健康増進事業や健康長寿サポーターについて聞きたい。また、健康長寿サポーターは具体的にどのような活動をするのか？

所管課長 デジタルトランスフォーメーション、例えばAR等の機器を使って健康づくりに生かしていくということを次世代型と表現している。

健康長寿サポーターについては、県からの依頼で実施している県の事業であり、健康長寿サポーター養成講座という名称も県でつけたものとなっている。基本的には自身の健康づくりをどうしていくかを学んだ上で、それを周りの人たちに広めていただくという仕組みになっている。

委 員 基本目標1における地域学校協働活動について、具体的にどのように推進をしていく予定があるか？

事務局 所管は教育委員会の社会教育課だが、本日は欠席のため次回に回答する。

会 長 教育機関等との連携による人材育成・活用の推進ということだが、ここだけの取組で地域人材の慢性的な担い手不足が賄えるものではないと思う。自身でも学校応援団や放課後子供教室という協働事業に関わっているが、参加者はいつも同じメンバーで、減ることはあっても増えることがなく、ここの活動の中でさえ担い手が不足している状況になっている。もっと裾野を広げるためにはイベントや学習会を通して、地域の住民はもちろんのこと、各種団体や商店や企業等に働きかけて福祉の意識

を持っていただくような取組が必要で、とりわけ自治会活動に参加する人が増えると色々な地域の担い手も増えてくると思う。福祉だけ、介護だけという視点ではなく、より広い面で色々な取組をしてほしい。

委員 基本目標2におけるウォーキングアプリの導入について、埼玉県のコバトンマイレージとは別に新しいアプリを導入する予定ということか？

eスポーツの導入については、色々な自治体やマスコミでeスポーツの活用を取り上げられており、とても良いことだと思うが、具体的にどのような教育機関等とコラボするか、また、どのような企業を誘致するつもりか、さらに今後の第9期の3年間でどれぐらいの予算を想定しているか、今の段階での計画を教えてください。

所管課長 ウォーキングアプリについては、今までは公民館等に端末が置いてあり、これを利用するということがあったが、継続できなくなってきたため、全てスマホを使ったアプリに変えるということである。なお、変えるにあたり、高齢者にとってアプリのダウンロードが難しいことが想定されるので、準備しながら進めていく。

eスポーツについては、まだ細かいところまでは決まっていないが、市内には大学が三つあるので、大学との連携等もやっていきたいと考えている。また、eスポーツの分野で特に中心になっている企業に教わりながら、来年度にテストイベントのようなものを実施した上でどのように広げていくかを健康づくり支援課だけではなく、介護保険課等とも役割分担しながら組み立てていきたいと考えている。

委員 基本目標1における生涯学習の促進のさやマルシェについて、自分が探しているものを見つけにくいことから子育て世代でも利用がなくなっている。別に「Home Ciao!」という子育て向きのホームページがあるが、子育ての講座を開いても知らない人がほとんどだったということがあった。しかし、こちらは保健センターの事業と連携して、新たに広がりを見せている。高齢者への情報発信はとても難しいと思うので、さやマルシェ以外にもどこかと連携しながら、その情報が一層広がるような取組を期待したい。

所管課長 情報発信は本当に難しく、タイムリーに情報発信すれば良いというものではなく、受け手側にしっかり見てもらえないと伝わらない。

さやマルシェだけではなく、便利なツールの情報等も注意して見ているが、良いものがあれば教えていただきたい。

会長 高齢者に対する情報発信は確かに難しい。広報でも見てもらえないこともある。ワクチン接種の際に民生委員がそれぞれの家にワクチンサポートのチラシを持って歩いたところ、皆が有難がり、サポート介助に集まってきたという事例もある。ある意味アナログかもしれないが、デジタルとアナログを両方使うというような多様なやり方を検討していただ

ければと思う。

委員 基本目標3における見守り機器について、見守り機器には色々な機器があると思うが、狭山市ではどのような機器に補助するか具体的に決まっているか？

所管課長 現在想定している機器は、色々な機器がある中で初期費用と毎月の月額が安いということを考えると、冷蔵庫のドアを開け閉めしたときに、家族にメールが送れるという機器が一番良いと考えている。その他にも家の照明を付けた消したの経過が家族にメール送付されるというものも検討に入っているが、今一番想定しているものは冷蔵庫の開け閉めを連絡する機器を使い、既に設置している緊急通報サービスを併用するような形を取れば良いと考えている。

委員 基本目標1における老人クラブについて、加入を促進しますとなっているが、今後、老人クラブへの支援について具体的にどのように考えているか？

所管課長 老人クラブについては、活動促進を進めるイベントとしてグラウンドゴルフ等を毎年行っているが、各地に均等にあるわけではなく、入りたいという気持ちがある方が自分で探して来てくれることが多くなっている。今年初めて行った取組としては、先日行った茶の里ウォーキングの途中にグラウンドゴルフの体験会場を作らせてもらい、老人クラブに入ることによってこのような事ができるという紹介を行った。このようにして加入者を少しずつでも増やしていければと考えている。

委員 基本目標3における見守り機器とも関連するが、オレオレ詐欺が全く止まらない状態になっている。現在、録音機をついている電話機に対する補助を5,000円で実施していると思うが、ハードルが非常に高いため、補助金の申請がないというのが実態だと思う。NTTや県が進めている外付けの機械で詐欺が防げている状況があるらしく、今の補助金が有効ではない実態を考えれば、そういう機械を設置する費用に対し補助金が出るように検討してほしい。（意見につき回答不要）

委員 基本目標3における地域活動団体等の活動拠点の確保について、社会福祉会館の環境整備に努めますとあるが、具体的にどのような形の環境整備を考えているか？

また、空き家の活用により地域福祉活動団体の活動拠点づくりを支援しますとあるが、予算的なものも含めてどのような支援を考えているか？

事務局 社会福祉会館については所管が福祉政策課だが、本日は欠席のため次回に回答する。

地域福祉活動団体の活動拠点づくりの関係については、冒頭に述べたとおり地域福祉計画との連携であり、地域福祉計画に地域福祉活動団体

への支援という位置づけの中で、福祉政策課や社会福祉協議会が取り組んでいる。具体的な説明については次回に回答する。

(3) 第3章 基本目標4～7について

健康推進部次長（介護保険課長）から説明

委員 基本目標7における防犯対策の推進にオレオレ詐欺対策の外付けの機械は入らないか？高齢者に対する対応としては非常に重要な項目になっていると思う。（意見につき回答不要）

委員 基本目標7における防災体制の充実について、先日、自治会の防災訓練に参加したが、自治会の人と話をした中で自治会に高齢者や障害者の情報が全く降りてこないという話を聞いた。そのため、実際に地震等の災害があったときに、どのように高齢者や障害者を自治会の人たちが対応すれば良いかわからない。

実際に避難訓練を受けて、障害者の立場で見ると、障害者用のトイレが1つしかなく、また、耳の悪い方には、聴覚障害を表す布・手帳・筆記用具のみがあるだけでとても脆弱だと感じた。

避難行動の要支援者に関しても毎年状況が変わってくる中で把握をどのように行っているか？

事務局 危機管理課と調整する内容が多いため次回に回答する。

4 その他 次回以降のスケジュールを事務局より説明

5 閉会

〈終了〉